

名古屋支部

令和6年度 名古屋市との災害廃棄物の仮置場設置・運営訓練を実施

令和6年10月22日（火）午前9時から名古屋市西区洗堰緑地ラグビー場（名古屋市西区山田町）において、名古屋市と名古屋支部（永井弘見支部長）とで第3回目の住民用仮置場設置運営訓練が実施されました。



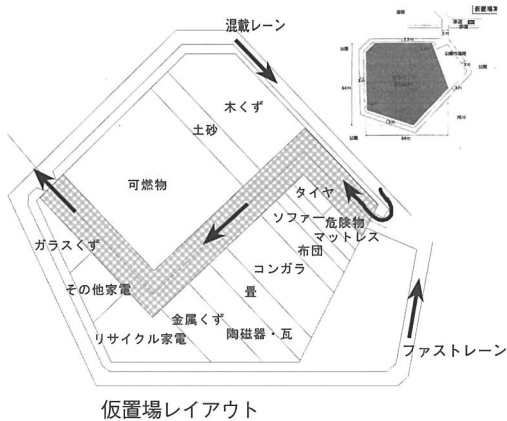
挨拶する作田施設部長



挨拶する永井支部長

訓練に先立ち名古屋市環境局施設部長の作田宏幸氏と名古屋支部長永井弘見氏から3回目の

訓練であり実り多い訓練にしていきたいと挨拶をいただきました。



仮置場レイアウト

今年度の訓練内容は昨年度と同様に、①仮置場レイアウトの作成、②災害廃棄物の受付・受入、③災害廃棄物の搬入・積み下ろし、④災害廃棄物の搬出ですが、今年度は狭い面積でも対応できるようにするため、昨年度の4,200㎡の面積から3,000㎡に縮小して実施されました。

参加者は、山田学区関係者（約10名）、愛産協名古屋支部約20名、名古屋市職員（約38名）また災害ボランティアちくさネットワーク等の参加者（約11名）他の春日井市職員2名、日進市職員2名が見学されました。

主な反省点と課題として、①仮置場面積3,000㎡は運営上狭く、18品目の分別の簡素化が必要、②ファ

ストレーンについて一定の効果を確認、③免許証による本人確認及び確認項目については便乗ごみの抑止効果と渋滞発生への影響のバランスを見て今後、検討。



受付の様子

訓練後の主な意見①仮置場について、面積は名古屋市の規模感を考えた準備が必要（ボランティア）、②受付について渋滞が発生したため、入り口で受付票を交付し、受付で確認する方法で渋滞緩和をする。③仮置場の運営について搬入エリアを色表示と番号表示で実施したが、色表示は見分けることができず、番号表示の方がわかり易く、入り口から①、②、③…の方が良いと感じた。また、搬入カードは仮置場スタッフが見えづらく、改善が必要と感じた。



搬入票を掲示した車両

来年に向けての検討事項について①洗堰緑地以外の候補を検討する、②記者クラブ発表など、報道対応を検討する。

③分別区分ごとの具体的な処理先の確認を行い、分別品目数とその必要性を精査する。



挨拶する伊藤事業部長



挨拶する山本委員長

訓練の終わりに名古屋市環境局事業部長の伊藤幸雄氏と愛産協の災害廃棄物処理対策特別委員長の山本浩也

氏から災害ボランティアネットワークの方々にもご参加いただき、また、今日の訓練の課題の解決を図り今後に生かしていただきたいと講評があり、3回目の訓練を終了しました。